

12 外国語活動 ―第3学年の実践―

1 単元 This is for you! カードを送って「ありがとう」を伝えよう! (Let's Try! 1 Unit 7)

2 単元について

- (1) 本単元では、主として色や形についての言葉や欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむことをねらいとしている。これらの言語表現を使う必然性を生むために「大切に思うだれかに“Thank-you Card”を送ろう」というゴールを設定することで、単にカードを作るためだけでなく、生活の中でかかわりのある人を想定したコミュニケーションを体験させることができる。また、生活の中で自分とかかわりのある人の中からカードを渡す相手を考えさせ、その人が喜ぶカードを作るために必要な材料を、試行錯誤しながら英語で伝え合おうとする姿を生み出すことができる考える。
- (2) 子どもたちはこれまで、あいさつや自己紹介の言語表現、好きなものを尋ねたり伝えたりする表現等を使って、ALT や実習生、他学級の友だちとやりとりをする体験をもってきた。今回は本当に欲しい物を得るために “What do you want? / Do you want --? / I want --.” という文構造の表現を扱う。この後、同様の文構造の英語表現を扱う学習につながる。
- (3) 本単元に関する子どもの実態は次の通りである。(調査人数36人)
 - ① 本学級の子ども全員が外国語活動の学習を楽しんでいるものの、学校以外で英語を習っている子どもは18人で、英語の音声や表現への親しみにについての個人差は大きい。
 - ② 英語表現が分からないときでも、相手にかかわり続けようとする意欲は高い。
 - ③ 学習した表現に対して、よく覚えていない、話すことへの自信が持てないという理由から、コミュニケーションを図るときに不安そうな様子の子どもが2人いる。
- (4) 指導にあたっては、次の点に留意する。
 - ① 単元の導入では題材に合うメッセージ性のある絵本、色や形を扱う活動を通して、教師と子ども、子ども同士のやりとりを取り入れながら、主な言語表現に親しめるようにする。
 - ② Thank-you Card を渡す相手を友だちや教師の中から考えるよう提案し、本単元で主に扱う言語表現を確認する。その上で、子どもと一緒に学習計画を作成することで、子どもが主体的にコミュニケーションや学習に臨むことができるようにする。
 - ③ インタビュー活動をするときには、扱う形や色等の材料は、子どもたちが実際に使いたいものを用意し、その英語表現を使う必要感や必然性のある場面、状況を設定する。
 - ④ 特に本時では、集める材料が目の前に並んでいない状態で注文させ、英語表現を工夫して相手に伝える必要性を生み出す。その上で、ペアでカード作りや英語表現へのアドバイスが行えるようにし、使った表現のよさや困ったことを全体での話し合いにつなげる。

3 単元の見通し

- (1) 日本語と英語の音声の違いに気付き、形の言い方や、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
- (2) 欲しいものを尋ねたり答えたりして英語表現を考えながら伝え合う。
- (3) やりとりする相手に伝わるように工夫して、自分の作品を紹介しようとする。

4 指導計画 (6時間取り扱い)

- (1) 本単元で学ぶ主な言語表現に気付き、単元の学習の見通しをもつ。・・・・・・・・・・1時間
- (2) 色や形の言い方や欲しいものを尋ねたり答えたりする英語表現に親しむ。・・・・・・・・2時間
- (3) 買い物場面で欲しいものを尋ねたり伝えたりしながら英語表現を考える。・・2時間(本時)
- (4) 制作したカードを紹介し合う。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

5 本時の学習

(1) 目標

受け取る人が喜ぶ **Thank-you Card** を制作するために、欲しい色や形、ものを伝え材料を集める活動を通して、表現を工夫して自分の思いを相手に正しく伝える。

(2) 展開

学 習 活 動	時間	指導上の留意点	備考
1 英語であいさつをした後、前時の学習を振り返り、本時の学習課題を立てる。	10	○ ALT とともに、一人一人の表情を見ながら明るく英語であいさつを行う。 ○ 前時の学習で困ったことや本時で挑戦していきたいことについて、子どもの振り返りをもとに、本時の学習課題を確認する。	前時の振り返りシート
自分の欲しいものを手に入れるためには、どのように表現したらいいだろう。			
2 子どもたちが使いたい色や形、やりとりで使う英語表現を声に出して練習する。	5	○ 学級を二つに分け、Shop keeper と Costumer の役割に分かれて練習したり、状況設定を決めたりして実際に声に出して復習する。 ○ 練習するときには、様々な英語表現を聞かせたり話させたりするが、特に自分が使いたい英語表現を意識して表現するように伝える。	イラストカード パソコン 大型テレビ
3 ALT や担任、友だちと買い物のやりとりをしながら、自分の欲しい色や形、ものを伝えて、カードを制作する。 (1) 教師や友だちと英語でやりとりをして、必要な材料をもらう。 (2) カードを制作する。	20	○ 自分が作成したい Thank-you Card に合う素材を英語を使って得ることができるよう、デモンストレーションを見せてやりとりを確認させる。 ○ 自分が本当に欲しい素材を相手に伝えるために、英語表現やジェスチャーを活用して試行錯誤している姿を全体に紹介する。 自分が欲しい素材を入手するために、英語表現や身体表現を工夫しながら相手に伝えているか。 (行動観察・発言・振り返りシート)	掲示用イラストカードやりとりをする素材、色画用紙
4 本時の学習を振り返る。 (1) 課題に対する気付きや感想を書く。 (2) 全体で聞き合う。	10	○ 学習を通して自分が挑戦できたこと、難しくて困ったこと、友だちとかかわって解決したことについて振り返るよう視点を伝える。 ○ コミュニケーションを図る態度や子どもの表現の仕方について、相手や目的を意識して工夫していたことを具体的に示し、次時への意欲を高めるようにする。	振り返りシート

6 指導の実際

ALT とのチームティーチングを行います。担任が T1 となり、子どもと一緒にクラスルームイングリッシュを用いてやりとりをしながら授業を進めていきます。学校の指導体制によっては、日本人の外国語支援員とチームティーチングをすることや、担任が単独で授業をすることもあります。

(1) 教師と子どもが互いに英語であいさつを行い、本時の学習課題を立てる。

発 問

Hi, everyone! How are you today? How are you, *Suguru*?

C I'm good, how are you?

T Thank you for asking! I'm great! How are you, *Yuko*? You look sleepy.

※ 決まりきった挨拶の表現ではなく、個々の子どもの表情や様子を見ながら、丁寧に尋ね、答えを全体で共有します。

発 問

前の時間にやりとりしてみて、英語でどう伝えたらいいのかな、と困ったことはありましたか。

C ぼくは野球のイラストカードが欲しかったんだけど、「野球」って英語でどう言ったらいいか、わからなくなりました。

C ジェスチャーを使ってみたら？ I want (バットを振るジェスチャー).

C そうしたら、相手が “Baseball?” って分かってくれるかな！

※ 困ったことやうまくいかなかった経験を全体で共感的に受け止め、「英語でどう表現したらいいか分からないときに、本当に自分の伝えたいことを伝えるにはどんな工夫ができるか」といった本時の課題を明確にします。

(2) 本時で子どもたちが使う英語表現の復習をする。

発 問

Do you want to practice some words? もう少し練習したい言葉はありますか。

※ 前時までに使った色や形、子どもが Thank-you Card に使いたいものが載った絵カードを示しながら、復習しておきたい英語表現があるか問います。教師が一方的に英語表現を提示していくのではなく、子どもがコミュニケーションに使うという目的をもって言語表現に親しんでいくことが大切です。

※ ALT の後で英語の音声を繰り返したり、デモンストレーションを見た後、ペアで尋ね合ったりさせることで、無理なく会話に挑戦することができるようにします。



ALT とのデモンストレーション

- (3) ALT や担任、友だちと買い物のやりとりをしながら、自分の欲しい色や形、ものを伝えて、カードを制作する。

指 示

Let's go shopping, and get something you want! 自分が本当に欲しいものをもらおう！

C “I want ～.”と言って、もらった形が変な形だったときは、交換してもらえるのかな。英語でどう言ったらいいんだろう。

C “Change, okay?”ってどう？

C “No!”ってはっきり言うのも大事だね。

※ 子どもがこのような話し合いを通して、英語表現を考えたり、別の表し方がないか試行錯誤する過程を見取ります。

※ 子ども同士が Shopkeeper と Costumer として役割を変えてやりとりを行えるようにすることで、多様な音声表現を自然な状況で聞いたり話したりすることができるようにします。

C 1 Hello! What do you want?

C 2 Hello! I want (a) blue star.

C 1 Okay. How many?

C 2 Two, please.

C 1 Here you are, okay?

C 2 Okay! Thank you. See you! (C 1 See you!)

※ 子どもがどのような英語表現や身体表現を用いてやりとりをしているか、子どもの近くで観察します。完全な英語で言えていなくても、子どもが表現しようと粘り強く考えて話そうとする姿を認め、教師が子どもにとって推測できる英語を使って応答する、表現を例示するなどの支援を行います。



英語を使ってやりとりする素材



子どもの発話や行動の観察

- (4) 学習を振り返る。

発 問

What did you learn today? Let's write down on your sheet.

C I want orange!と言ったら、みかんのイラストが出てきて、本当はオレンジの色画用紙がほしかったので、おもしろかったです。同じ言葉だけど、意味が違うんだなあと思いました。

C 菱形の言い方が分からなかったんだけど、ジェスチャーとイラストで描いてみたら伝わって、〇〇さんが“Diamond だね”と教えてくれました。これから、きっと忘れません。

※ 子どもたちが表現に関して気付いたり、英語によるコミュニケーションを楽しんだりした具体的なエピソードを出し合わせ、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3つの観点で振り返ることができるようにします。ただし、この3つの観点は毎回の授業で全てを評価するのではなく、単元のまとまりの中で適切に指導と評価を関連させて組み込み、子ども自身が何をどのように学んだか自覚することができるようにします。（高田 実里）